

# 2017 年度 事業報告

特定非営利活動法人N I E D ・国際理解教育センター

## 1 事業実施の方針

次に掲げるビジョン、ミッション、バリューに基づき、事業を行った。

なお、ミッション、バリューについては、事業計画承認段階から見直し、追加などを行った。

### <ビジョン>

よりよい未来を、子どももおとなも、ともに学び・ともに創る社会をめざします。

### <ミッション>

ビジョン実現のために、「国際理解教育」の実践として、次のことに取り組み続けます。

- ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。
- ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。
- ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。
- ④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。
- ⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。

### <バリュー>

【尊厳と信頼】ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。

【願いと選択】何を指すか、どう行動するかを問い続けること。

【教育と実践】ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。

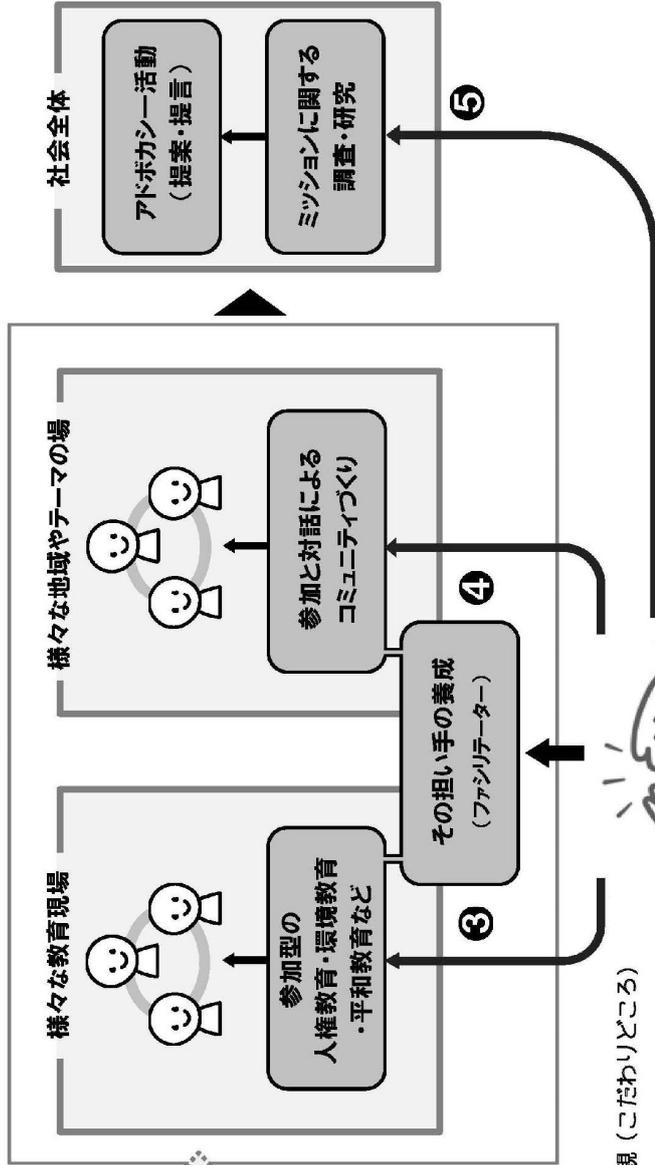
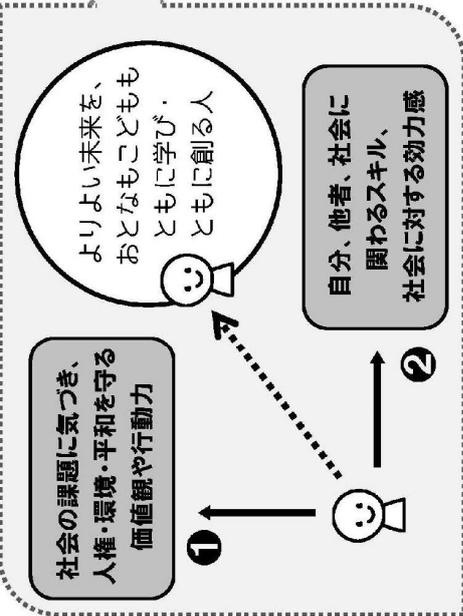
※カギ括弧の「国際理解教育」は、一教育分野としての国際理解教育を指すものではなく、ここに掲げたビジョン、ミッション、バリューを实践、推進する活動全体を指すものである。当団体の名称も同義である。

よりよい未来を、こどもおとなも  
ともに学び・ともに創る社会

**ビジョン** 私たちが目指す社会の姿

**ミッション** ビジョン実現のために私たちが果たす社会的使命 = 「国際理解教育」の実践

各場におけるひとり一人のエンパワメントの方向



**バリュー** ミッションを遂行する上で私たちが大切する価値観（こだわりどころ）

- 【尊敬と信頼】 ひとり一人が大切な存在であり、力があると信じること。
- 【願いと選択】 何を目指すか、どう行動するかを問い続けること。
- 【教育と実践】 ファシリテーターであると同時に、学び続ける実践者であること。



特定非営利活動法人  
NIED・国際理解教育センター  
(ファシリテーター)

## 2 2017年度業務の全体像

### (1) ワークショップの提供状況や内容の外観

◇参加の文化を拓げる指標の結果は下表のとおりである。全体的な傾向としては、ワークショップ提供日数はやや減ったものの、その他の指標で昨年度と同等レベルであった。

◇NIED の研修の特徴としては、教員や地域リーダーなどを対象とした指導者研修の割合が6割前後と高いことである。

指標名	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
業務数	31	43	43	35	<b>36</b>
WS提供日数	137	181	169	159	<b>139</b>
WS提供時間	402.5	536	481	428	<b>442.5</b>
WS参加者数	1,383	1,985	1,631	1,468	<b>1,424</b>
延べ参加者数	2,772	3,926	3,292	3,258	<b>3,034</b>
新規業務数	13	20	18	14	<b>13</b>
新規業務率	42%	47%	42%	40%	<b>36%</b>
継続実施数	18	23	25	21	<b>23</b>
指導者研修率	58%	63%	63%	54%	<b>59%*</b>

※：1 業務の中に指導者研修と一般研修・子ども研修がある場合は分けて計上した。分母は39 業務である。

### (2) 扱ったテーマ 自主講座・プロジェクトを除く (母数 29 業務)

◇国際理解系 (SDGs、国際交流、多文化共生を含む) が 12 件と最も多く、次いで人権系 (コミュニケーション、多様性受容、対立) が 8 件と多い。環境系は、2015 年度以降 2 件と少なく、その一方で、アクティブ・ラーニングの学校への導入が言われ始めた影響もあり、まちづくり・団体支援系 (ファシリテーションを含む) が 7 件と比較的多くを占めている。

テーマ	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
国際理解系	12 件	13 件	16 件	11 件	<b>12 件</b>
人権系	8 件	12 件	11 件	5 件	<b>8 件</b>
環境系	5 件	10 件	2 件	2 件	<b>2 件</b>
ファシリテーション ・まちづくり系	5 件	7 件	12 件	14 件	<b>7 件</b>

**(3) 実施した地域**

◇愛知県が 23 件と最多である。次いで香川・高知県 6 件と過去 5 年間で同地域から最多の依頼となった。そのほか岐阜・三重県が 4 件、その他遠県等が 3 件であった。

地域	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
愛知県	22 件	33 件	31 件	29 件	<b>23 件</b>
岐阜・三重・静岡県	7 件 [4, 2, 1]	5 件 [2, 3, 0]	6 件 [3, 3, 0]	3 件 [2, 1, 0]	<b>4 件</b> [2, 2, 0]
香川・徳島・高知県	2 件 [1, 1, 0]	5 件 [3, 1, 1]	3 件 [2, 0, 1]	1 件 [1, 0, 0]	<b>6 件</b> [4, 0, 2]
その他遠県等	0 件 -	0 件 -	3 件 北海道、沖縄、岡山	2 件 北海道、長野	<b>3 件</b> 北海道、長野 2

**(4) 主催者** 自主講座・プロジェクトを除く (母数 29 業務)

◇最も多い業務の主催者は、教育団体系 (教育委員会や学校など) が最も多く 9 件、次いで NPO (自主事業を除く) と自治体系 (地方自治体や地域国際化協会など) が 7 件、JICA が 5 件であった。また、その他民間団体が 1 件 (名古屋 JC) あった。

主催者	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
教育団体系	10 件	13 件	18 件	12 件	<b>9 件</b>
NPO	8 件	7 件	8 件	5 件	<b>7 件</b>
自治体系	8 件	16 件	9 件	11 件	<b>7 件</b>
JICA	2 件	2 件	4 件	3 件	<b>5 件</b>
その他民間団体	0 件	0 件	0 件	0 件	<b>1 件</b>

**(5) ワークショップの時間** 対外的なワークショップを行っていない事業を除く (母数 33 業務)

◇12 時間超が 13 件と最も多く、残りの区分は 4~6 件であった。なお、1 業務あたりのワークショップ時間のため、例えば 1 つの業務で別の対象に 2 時間ワークショップを計 4 回行ったケースもある。

業務あたりの WS 時間	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
3 時間未満	6 件	3 件	8 件	6 件	<b>5 件</b>
3~4 時間	11 件	12 件	14 件	10 件	<b>6 件</b>
4.5~6 時間	1 件	10 件	4 件	1 件	<b>5 件</b>
6.5~12 時間	5 件	6 件	3 件	5 件	<b>4 件</b>
12 時間超	8 件	12 件	12 件	12 件	<b>13 件</b>

## (6) 依頼ファシリテーター数、時間(担当)

◇依頼ファシリテーター数(複数回講座でも1人で担う場合は1人として計上)は、53人と、過去5年間の平均的な依頼数となっている。

◇代表の請負率(代表率)をみると43%であり、過去5年間では最も低い割合となっている。研究員の請負率は34%、研究員補等の請負率は23%と、昨年度よりも大幅に上昇した。

ファシリテーター		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
代表	伊沢	23	28	30	31	23
研究員	平野	2	8	5	5	5
	伴	3	6	2	3	6
	茅谷	2	2	1		
	久世	2	2	1	1	3
	川合	6	1	3	2	3
	滝	1	1			
	山田	2	1			
研究員補等	堀川	3	3	2	1	1
	吉岡			1	1	1
	鉄井		1	1	2	5
	田口			2	1	3
	長野				2	2
	坪井	1				
	永谷	3	1	1		
	中西あ	1				
	奥田	1				
	守屋	1	1			
	菱川		1	1		
	夏目				1	
	佐藤					1
合計		51	56	50	50	53
代表率		45%	50%	60%	62%	43%
研究員請負数		18	21	12	12	18
同上率		35%	38%	24%	24%	34%
研究員補等請負数		10	7	8	7	12
同上率		20%	13%	16%	14%	23%
備考 (複数F依頼)		JICA(3) 愛知学院(2) 中京大(3) NANGOC(4) 三重環境(2) 小幡小(3) 国理セミナー(3)	JICA(3) 愛知学院(2) 中京大(4) NANGOC(2) 三重環境(2) 小幡小(3) 国理セミナー(3)	JICA(3) 中京大(4) 三重環境(2) 小幡小(3)	JICA(3) 中京大(5) 春日高(2) ポラセン(3) 旭中(2) JICA北海道(2) 三重環境(2)	JICA(3) 刈谷(3) 春日高(2) ポラセン(5) JICA北海道(2) 三重環境(2) 名古屋JC(3)

注1: 自主講座、打合せ会議、市民主体のイベント支援に関わるのファシリテーターは除いた。

注2: 伊沢分のうち、JICA開発教育指導者研修(実践編)と教師海外研修国内研修は2人分、刈谷市3つのプロジェクトは3人分とした。

### 3 各ミッションに対する2017年度の総括（成果と課題）

#### ① 社会の課題に気づき、人権・環境・平和を守る価値観や行動力を育みます。

2017年度の事業計画のミッション①に関する総括は次のとおりである。

取り組み名	成果と課題
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション①の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション①の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション①に関する評価指標づくりと試験運用	◆NIED が提供する講座・研修が、ミッション①に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標の導入についての検討・試験運用することはできなかった。引き続き、検討・試験運用を始めることが課題である。

#### <評価指標の参考>

JICA 中部開発教育指導者研修(実践編)受講者が実践した授業等に対する学習者の変化指標

オルタナティブ・スクールあいち惟の森基本構想における評価指標

中学校卒業時に一人ひとりに育まれているとよいと願う価値観とチカラ

設問 19；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	23	61%
2	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った	23	61%
3	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	20	53%
4	自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった	19	50%
5	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	18	47%
6	自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にしようとした	17	45%
7	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	15	39%
8	自らの生き方や共生について考えるようになった	14	37%
9	その他	3	8%
	全体	39	100%



#### 8つの価値観(概念・意識)

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| A 自分も他者もかけがえのない大切な存在    | E 社会の中でつながり、協力しながら生きる |
| B 学ぶこと・行動することはよりよく生きること | F いのちと自然を大切に生きていく     |
| C 自由を認め守りながら、自由に生きる     | G 誰もが幸福で公正な社会を求め続ける   |
| D 誠実であること、寛容であること       | H 私たち自身の社会だから未来は変えられる |

#### 16のチカラ(技術・態度)

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| ① かけがえのない自分のことを大切にする     | ⑨ 社会を構成する市民という意識を持つ       |
| ② 自分で考え、感じ、自分のことは等々で表現する | ⑩ コミュニティで他者と対話し、合意し、協力しあう |
| ③ 知りたいことや考えたいことを探求する     | ⑪ 対立は悪くないと考え、対立を建設的に解決する  |
| ④ 願いを持ち、失敗もOKでチャレンジする    | ⑫ 自然といのちの尊厳を実感し、大切にしよう    |
| ⑤ 学び方を学び、主体的に必要な学びを行う    | ⑬ 環境の多様性・相互依存性・有限性に配慮する   |
| ⑥ アサーティブに気持ちや考えを伝える      | ⑭ 情報を多面的・批判的に捉え、公正な判断をする  |
| ⑦ 文化や価値観の多様性を受容する        | ⑮ 人々の願いにあう新しい価値や変化を創造する   |
| ⑧ 他者を思いやり、人権を尊重する        | ⑯ 課題の解決や望む未来の実現のために行動する   |

## ② 自分、他者、社会に関わるスキルを培い、社会に対する効力感を育みます。

◇NIED が考える「自分、他者、社会に関わるスキル」とは、次のようなものである。



取り組み名	内容方針
(a) NIED が提供する講座・研修のねらいへのミッション②の組み込み	◇前項(2)扱ったテーマに示したとおり、NIED が実施する研修・講座のねらいに、ミッション②の要素を組み込み、提供することができた。
(b) ミッション②に関する評価指標づくりと試験運用	◆NIED が提供する講座・研修が、ミッション②に寄与しているかどうか、総合的系統的に整理・分析ができる評価指標の導入についての検討・試験運用することはできなかった。引き続き、検討・試験運用を始めることが課題である。
(c) 大半以上の若者にあると思われる「社会に対する効力感」のなさの打破	◆市民性教育により有権者が変わり、選択・行動が変わるという切り口から、NIED としてできる手立てと社会的インパクトの見通しを立てられなかった。

## ③ 様々な教育現場で、参加型の人権教育・環境教育・平和教育などを広め、またその担い手を養成します。

(1) 学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 の 2017 年度実績

◇現場…小学校 1、高校 6、自治体関係 2、民間 2、NPO 2    ◇対象…子ども 9、一般 5  
 ◇テーマ…国際理解系 6、人権系 4、環境 2、ファシリテーション・複合 2  
 ◇参加者数…573 人（昨年度 586 人）、    ◇延べ 1,211 人（昨年度 1,137 人）  
 ◇提供時間…118.5 時間（昨年度 82.5 時間）

(2) 担い手を養成する研修 の 2017 年度実績

◇現場…高校 1、教育団体 4、JICA 5、自治体関係 1、NPO 4  
 ◇対象…教員等 10、地域指導者等 3、NPO 関係 2  
 ◇テーマ…国際理解系 5、人権 5、環境 1、ファシリテーション・複合 4  
 ◇参加者数…618 人（昨年度 551 人）、    ◇延べ 1,401 人（昨年度 1,325 人）  
 ◇提供時間…245.0 時間（昨年度 183.5 時間）

## (3) ミッション③に関する NIED の自主的取り組み

◇ミッション③に関する NIED の自主的取り組みについての実績・成果及び課題は次のとおり。

## a. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座テーマ編2017 担当:久世

区分	実績・成果	課題
学習者に直接、基礎的なテーマ等を提供する講座 ①T講座	<p>◇4回、25人、延べ42人、平均10.5人[前年度:5回、32人、延べ61人、平均12.2人]の参加者を得て、国際理解教育の様々なテーマ(多様性・コミュニケーション・自己実現・平和)について講座を行い、テーマごとに参加者とともに、学びを深めることができた。</p> <p>◇うちNIEDメンバー(新入会者を除く)は、11人、延べ17人[前年度:13人、延べ28人]が参加し、NIED人材の教育力向上に資することができた。</p>	<p>◆参加者数は、第1回「多様性」が6名、第2回「コミュニケーション」が9名に留まった。各回10名以上の参加が学びあいの観点からも望まれる。</p>
その担い手を養成する研修 ②T講座 プロジェクト	<p>◇5月に担当理事、各回の担当ファシリテーター4人および担当研究員でプロジェクトチームを立ち上げた。プログラム・メイキングの基礎をキックオフ・ミーティングで行い、その後担当ファシリテーターは担当研究員と共に複数回のミーティングを重ねてプログラムを練り上げた。本番1ヶ月前にはプログラム検討寄り合いを行い、プロジェクトメンバーおよび寄り合い参加者からのアドバイスを受けながらさらにプログラムの練り込みを行った。</p> <p>◇当日は6時間に渡るワークショップを行い、外部参加者に対してファシリテーションを実際に行うという経験値を得ることが出来た。また講座終了後にすぐに振り返り会を行い、「よかったところ」「さらに良くなるための改善点」を中心に話し合いを行い、スキルアップを行うことができた。</p> <p>◇T講座全体を通して実際にファシリテーターとして経験値を増した。メンバーのみならず、担当研究員や講座・検討寄り合いに参加したNIEDメンバー全員の教育力向上を図ることができた。</p>	<p>◆NIEDのプログラム、ファシリテーションをよりよく提供しつづけるために、T講座のプログラムのあり方、メイキング体制について、引き続き検討していく必要がある。</p>
その担い手を養成する研修 ③NIED寄り合いT講座系	<p>◇4回行われたT講座と連動し、各講座の1ヶ月前にT講座検討寄り合いを行った。講座の担当ファシリテーターが作成したプログラムを寄り合い参加者全員で検討したり、実際に予定されているアクティビティを経験したりしながら、研鑽に励むことができた。</p>	<p>◆関係メンバー以外の参加が少なく、すべての会員を対象に開催されているというアピールをさらに進める必要がある。</p>

## b. 参加型で世界は変わる～NIED国際理解教育講座ファシリテーター編2017, 2018春」担当:伊沢

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修F講座	<p>◇2017年7月と2018年3月に各3回ずつ「参加を文化に！」をメインタイトルとして1年に2ラウンドのF講座を開催することができ、7月は延べ32名、3月は31名の参加者を得た。</p> <p>◇平均して各回11名の参加者があった内、3分の2はNIED以外からの参加者で、その内5名が、講座修了後、新たなNIED会員としてつながった。</p> <p>◇講座内容は、「参加型の意味と参加型に取り組む意義」「望む社会のビジョンと現状とのギャップ／課題を作り出す背景の確認」「課題解決・ビジョン実現のためプログラム」という3本柱は変わらないが、「まちづくり系」「会議系」「人間(教育)系」という3つの場でのファシリテーションの共通項を意識し、この2年で得た新たな視点(例 SDGs)と経験知を加えたプログラムを提供した。</p> <p>◇中部地域からだけでなく、四国からの参加者があったため、3月の講座において土日連続を試みたところ、これはこれで学びの連続性が確保され、参加者減もなく、今後採用可能な日程モデルとなった。</p>	<p>◆これまで NIED が取り組んできた「参加型」の意味と意義と方法を体系的に包括的に伝え、1年間でアップデートした知識や情報やアクティビティを共有する場として、NIED メンバーの参加も期待したい。</p> <p>◆まちづくり系、会議系、教育系など、多岐に渡るファシリテーションのどの場にも関わってきた NIED の経験知を活かし、「参加を文化に！」「オモイをカタチに！」「自ら考え自ら動く」人を内外に増やすため、NIED 自主講座としてのF講座を、年2回開催することを今後も目標としたい。</p> <p>◆F講座のFに NIED 研究員をフューチャーし、複数担当制にすることも要検討である。</p>

## c. NIEDファシリテーター制度(研究員、研究員候補、T講座F経験者) 担当:川合

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修F制度	<p>◇受託・派遣事業を担った代表以外のファシリテーターは次のとおりであった。</p> <p>① T講座F経験者… 2人(佐藤、長野)</p> <p>② 研究員候補…4人(吉岡、田口、鉄井、長野)</p> <p>③ 研究員…4人(久世、伴、平野、堀川、川合)</p> <p>◇代表以外がファシリテーターを担う割合が<b>43%</b>(日数ベース)となり、昨年度の62%を上回った。</p> <p>◇NIED ファシリテーター制度で昇格したファシリテーターは次のとおりであった。</p> <p>① T講座F経験者… 1人(二宮)</p> <p>② 研究員候補…1人(佐藤)</p> <p>③ 研究員…4人(吉岡、田口、鉄井、長野)</p> <p>◇ファシリテーター派遣に係る謝金規程を改訂し、代表がメンターとして関わることを位置づけたこと、理事会で当面の若手重点候補4人を定めたことが奏功し、代表以外が受託・派遣を担うことにつながった。</p>	<p>◆NIED 全体の経営状況に関わらず、ビジョン実現に向けて、より多くの研究員を育てるミッションを進めるため、NIED ファシリテーター制度における昇格者を増やす手立てを継続して検討、実施していく必要がある。</p>

**d. IVY(アイビー) 制度 担当:川合**

…NIEDメンバーが他のNIEDファシリテーターが実施する研修・講座等に同行し、実際にワークショップやファシリテートを見て学ぶ機会を作るもの(交通費自己負担、報告書要提出)。

区分	成果	課題
その担い手を養成する研修 IVY 制度	◇2017 年度の利用は 2 業務延べ 3 名であった(昨年度:2 業務 9 名)。	◆2015 年度の会員アンケートでは、「利用したい」69%と利用意向は高いため、積極的なアピールなど利用者の向上を行うことが望まれる。

**④ 様々な地域やテーマの場で、参加と対話によるコミュニティづくりを進め、またその担い手を養成します。**

## (1) NIEDが直接コミュニティづくりをする事業の 2017 年度実績

◇地域・テーマの場…地域コミュニティ 2、自治体関連 2、NPO 1  
 ◇対象…地域住民 2、子育て世代 1、研修受講生 1、一般 1  
 ◇テーマ…国際理解系 2、子ども・子育て 1、コミュニケーション 1、参加 1  
 ◇参加者数…149 人 (昨年度 195 人)、 ◇延べ 313 人 (昨年度 474 人)  
 ◇提供時間…41.0 時間 (昨年度 92.5 時間)

## (2) その担い手を育成する研修の 2017 年度実績

◇地域・テーマの場…地域コミュニティ 2、イベント 2、  
 ◇対象…ボランティアリーダー 2、まちづくり人 1、NGO 職員 1  
 ◇テーマ…ボランティア 2、ファシリテーション 1、市民活動 1  
 ◇参加者数…100 人 (昨年度 94 人)、 ◇延べ 115 人 (昨年度 94 人)  
 ◇提供時間…52.0 時間 (昨年度 26.0 時間)

**⑤ ミッションに関する調査・研究をし、広くアドボカシー活動を行います。**

## (1) ミッション⑤に関する 2017 年度実績

◇アドボカシーの対象…学校・教員 3、NPO 2  
 ◇テーマ…国際理解系 2、自分・他者・社会に関わる力 2、その他 1  
 ◇調査・研究に関わった参加者数…45 人 (昨年度 63 人)  
 ◇同 延べ人数 234 人 (昨年度 253 人)  
 ◇調査・研究に関する会議時間…142.0 時間 (昨年度 63.5 時間)

## (2) ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みの成果と課題

◇ミッション⑤に関する NIED の自主的取り組みに関する成果と課題は次のとおり。

**e. わたし・あなた・みんなプロジェクト** =ミッション②の自分に関わる力に関する研究・発信 **担当:滝**

区分	成果	課題
①SE テキストづくり	<p>◇2017 年度は、SE テキスト実用化のためのリサーチ活動として、こども NPO との協働により、学習サポートの事業内容に沿った SE アクティビティの提供と検証の機会が得られた。</p> <p>◇その結果、学習サポーター対象の月例のミーティングに研修という形で、SE 系アクティビティを盛り込んだ 3 時間のワークショップを 7 月と 2 月と 2 回実施することができた。各回とも 3 名のスタッフを含めて 15 名、18 名の参加を得て、学習サポーターが自身の内面を掘り起こしていく作業に貢献できた。</p>	<p>◆2017 年度の活動は、2016 年度までに内部で取り組んできたアクティビティの提供・検証を団体外部に場を変えただけと言え、テキストづくりという面では足踏み状態であることは否めない。</p>
②SE ラボ寄り合い	<p>◇4 回行われた SE ラボを寄り合いとして継続することができた。回数は少なかったものの、新たに 2 名の会員を SE ラボ寄り合いに迎えることができ、少しは NIED 人材の教育力向上に貢献できた。</p> <p>◇2016 年度に作成した「SE ラボ活動原本」が、新たに SE ラボに興味を持った会員に向けた活動案内としての役割を果たした。</p>	<p>◆SE ラボが他団体との協働として取り組むようになった初年度ということで、協働相手に寄り添った形で進めることにより回数が減った。</p> <p>◆それに伴い、活動状況が会員に見えづらくなったこともあり、参加者は毎回 4 名と減少した。</p>

**f. NIED 本出版プロジェクト** =ミッション②の他者に関わる力に関する研究・発信 **担当:田口**

成果	課題
<p>◇今まで NIED が培ってきたアクティビティやプログラムを基にして国際理解教育のテーマごとに NIED オリジナル教材を出版する。1 冊目は「コミュニケーション」をテーマに「よりよい未来をともに学び・ともに創るファシリテーターのための参加型アクティビティ集『コミュニケーション編』—他者に関わる力を育もう—」出版することができた。(初版 500 冊、税込み 2,160 円)</p> <p>◇本の内容は「国際理解教育とは」「手法の紹介と解説」「アクティビティ(0)アイスブレイク(1) コミュニケーションとは？(2)コミュニケーションの大切さ(3)コミュニケーションスキル(4)行動計画」「モデルプログラム」を掲載した。</p> <p>◇プロジェクトメンバーのミーティングを 22 回開催した。</p>	<p>◆今回出版した書籍の活用のために販売方法を確立し、活用のための研修の実施などを考える必要がある。</p>

## g. 書籍活々(いきいき)プロジェクト =全ミッションに関わる調査・研究 担当:伴

成果	課題
<p>◇プログラム作りのために活用頻度の高いと考えられる書籍、アクティビティ集、データ本などを一つの書棚に収めた。</p> <p>◇書籍貸出は11人から50冊の利用があった。(昨年度:8人から17冊)</p> <p>◇プロジェクトメンバーミーティングを3回、NIEDメンバーとのワークショップを1回行った。</p>	<p>◆会員と共に学び合える書籍活用の機会づくりを計画的に進める必要がある。</p>

## h. NIED情報共有システム =全ミッションに関わる調査・研究 担当:川合

区分	成果	課題
実績成果の共有	<p>◇実績成果に関わる情報ボックス「NIED-ShareBox-2」フォルダに、当該年度のT講座の記録等を整理・格納した。</p> <p>◇受託業務への派遣される NIED ファシリテーターのニーズに応じて、過去のプログラムや教材を提供した。</p>	<p>◆情報ボックスの認知度と活用度の向上について検討する必要がある。</p> <p>◆F講座の記録などについても共有すること。</p>
一般情報共有・交換	<p>◇会員メーリングリストの年間投稿数は265件[前年度:340件]であった。</p> <p>◇発行の半分を理事が担うことにより、NIED 徒然の発行は、6月から毎月となる10号[前年度:5号]発行することができた。</p> <p>◇「NIED-ShareBox-1」は、一般的なウェブからもアクセスできるようなシステムを作り、周知を図った。</p>	<p>◆NIED 徒然を、総会后、毎月発行することができたが、各月の発行日が遅れることがあった。「定期」発行するための方策について検討が必要である。</p>

## i. ホームページ・広報プロジェクト =全ミッションに関わる発信 担当:堀川・川合

成果	課題
<p>◇電子媒体による広報活動として、NIED の活動実績等を NIED ブログに18件[前年度24件]、NIED フェイスブックページに31件[前年度32件]投稿した。</p>	<p>◆ブログ、フェイスブックへの投稿数が減少傾向にある。広報担当者だけでは活動すべてを把握することが難しく、活動に関わる人が広報にもかかわったり、投稿したりできるような形にしていくことが望まれる。</p> <p>◆改訂したNIEDのビジョン・ミッション・バリューを掲載し、それが伝わるような活動実績等の見せ方、その他発信の方法を検討する必要がある。</p> <p>◆残部僅かなため、NIEDリーフレットの更新等について引き続き、検討する必要がある。</p>

## 4 事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

### ● A. 参加・対話・体験型の研修・講座などに対する相談・ファシリテーター派遣事業

#### (1) 事業内容

自治体、教育委員会、民間団体などからの依頼により、国際理解、人権、環境、まちづくり・ファシリテーションなどをテーマとした参加・対話・体験型講座・研修にファシリテーターの派遣を行った。

#### (2) 開催概要

2017 年度は、合計 26 事業（前年度：24 事業）で、研修等の提供時間は 189.5 時間（前年度：150.5 時間）あった。個別の事業の依頼主／主催、事業名／研修テーマ、実施日時、場所、対象、参加者数、提供時間、ファシリテーター・スタッフなどの詳細は巻末一覧表、収入・支出の内訳は収支計算書類を参照のこと。

#### (3) 延べ参加者数 1,760 人（前年度：1,810 人）

#### (4) 収入額 3,154,692 円（昨年度：2,827,385 円）謝金、委託費、交通費等

#### (5) 支出額 2,186,875 円（昨年度：1,732,556 円）給与・法定福利費 940,221 円、謝金 757,510 円 旅費交通費 487,390 円、その他 1,754 円

### ● B. 基礎研修およびファシリテーター養成などの自主講座事業

#### (1) 事業内容

主に、人権・環境など国際理解教育の基本テーマを扱う講座、ファシリテーター講座、「月夜場」と題した自由な集まりの講座を自主事業として行った。

#### (2) 開催概要

2017 年度は、合計 4 事業（前年度：3 事業）で、研修等の提供時間は 68.0 時間（前年度：69.0 時間）であった。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

#### (3) 延べ参加者数 118 人（前年度：136 人）

#### (4) 収入額 567,600 円（昨年度：198,600 円）参加費

#### (5) 支出額 270,916 円（昨年度：201,852 円）給与・法定福利費 147,292 円、謝金 119,880 円 旅費交通費 2,160 円、その他 3,744 円

### ● C. 環境や人権などを視点としたまちづくりのプロセス企画・実施事業

#### (1) 事業内容

地方自治体などにおける環境や人権を視点としたまちづくりのプロセス・プログラムの企画立案、ファシリテーターとしての支援、記録・報告書作成までの一連の業務を行った。

#### (2) 開催概要

2017 年度は、合計 6 事業（前年度：6 事業）、研修等の提供時間は 179.0 時間（前年度：188.5 時間）のワークショップを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

#### (3) 延べ参加者数 1,123 人（前年度：1,264 人）

#### (4) 収入額 18,077,436 円（昨年度：18,302,102 円）委託費

#### (5) 支出額 16,351,679 円（昨年度：16,349,380 円）給与・法定福利費 5,790,550 円、 謝金・外注費・印刷費 7,101,525 円、旅費交通費 1,648,002 円、通信運搬費 1,503,231 円、 その他 308,371 円

## ● D. 目的を実現するために必要な調査・研究・情報提供事業

### (1) 事業内容

国際理解教育・開発教育を推進するため、「必要な調査・研究を行う」、「PRする」ことを、研究会方式などにより行った。

### (2) 開催概要

2017 年度は、4 つの事業（前年度：2 事業）、研修等の提供時間は 6.0 時間（前年度：20.0 時間）のワークショップなどを行った。個別詳細は巻末一覧表および収支計算書類参照のこと。

### (3) 延べ参加者数 33 人（前年度：48 人）

(4) 収入額 1,283,888 円（昨年度：168,480 円）委託費

(5) 支出額 1,339,763 円（昨年度：136,585 円）給与・法定福利費 382,649 円、  
謝金・外注費 808,200 円、旅費交通費 145,080 円、その他 3,834 円

## 5 会議の開催に関する事項

### (1) 総会 2017 年度定期総会

日 時 2017 年 6 月 4 日（日）13:30～16:00

場 所 本山シェアオフィス（NIED 事務所）

出席者数 正会員総数 42 人中、当日出席 19 人、委任状出席 18 人、合計 37 人

議 題 (1) 2016 年度事業報（案）及び収支決算（案）の承認に関する件-----承認  
(2) 2017 年度事業計画（案）及び予算（案）の承認に関する件-----承認

### (2) 理事会 2017 年度は、下表のとおり 7 回開催した。() 内はオブザーバー人数。

回	日時	議題	場所	出席
1	4月22日（土） 10：45～15：30	(1) 各プロジェクトの 2016 のふりかえり→2017 方向性 (2) NIED のバリューの検討	本山シェア オフィス	5 人 (1 人)
2	5月5日（金） 13：00～18：00	(1) NIED の全体方針の体系化 (2) 各プロジェクトの総括と方針、具体的手立て	本山シェア オフィス	5 人 (2 人)
3	5月28日（日） 13：00～18：15	(1) NIED のビジョン、ミッション、バリューのまとめ (2) 2016 年度業務報告、決算報告、ミッション別課題 (3) 2017 年度の事業計画と予算・体制	本山シェア オフィス	5 人 (2 人)
4	7月7日（金） 20：00～21：30	(1) 2017 度の事業計画の具体化	本山シェア オフィス	4 人 (1 人)
5	8月31日（木） 14：00～17：45	(1) 事務所の維持方策 (2) 理想の学校を創る会への支援方策	本山シェア オフィス	4 人 (1 人)
6	11月3日（日） 13：00～17：00	(1) NIED 本出版について (2) 理想の学校を創る会への寄付	本山シェア オフィス	4 人 (3 人)
7	2月2日（金） 18：15～19：40	(1) 2017 年度の業務と 2018 年度の業務見込み (2) 各プロジェクトの進捗状況 (3) 会員の動向	本山シェア オフィス	3 人 (1 人)